

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## 人と人のハーモニー、あいさつのひとつから

最近、帰国する留学生や取材に訪れた記者などから「道で行き交う人があいさつしてくれる」「町並みもきれいだし、まちなかの雰囲気が高い」「あいさつがしっかりとできていて都市では考えられない」のだという。小職も以前、本州の小さな町を訪問した時、まちなかで小学生が大きな声であいさつをしてくれたところがあった。さすがにいい気持ちになる。あいさつは小さな時から習慣化されているものだと思う。実に素晴らしい情景ではないか。

都会に行くと、人に何かを聞くのさえも気が進まない。人と人がある意味で「われ先に、われ先に」と競争しているように見える。憶測ではあるが、家庭でも学校でも子供たちには「知らない人に声をかけない」ことが徹底されているのかも知れない。

新聞やテレビでは毎日のように凶悪な犯罪を事件報道している。「切った」「刺した」「締めた」…と恐ろしいものである。人と人が共鳴していないのが原因ではないだろうか。「あいさつがない」「会話がなない」「相談するところもない」などと、『相手がいない』ことが大きな要因となっていないだろうか。

「こんにちは」と語りかけると「こんにちは」と共鳴する人と人のハーモニーが存在していること、つまり共生社会になっていないのではないかと思うことがある。

農村の自慢は、開拓以来今日まで受け継がれてきている「心と心をつなぐ」「人と人をつなぐ」「あいさつを交わす」人と人のハーモニー文化が強く根付いていることである。

一方、農村には農村らしさ、「打てば響く素朴な文化」「共鳴する文化」が強く残っている。幼児センターでも町内どの小、中学校でも、大きな声であいさつを交わす文化が受け継がれている。道で出会う人が「こんにちは

### スクラップ・アンド・ビルド (一般書)

羽田圭介:著 文藝春秋:刊



健斗は自宅で資格取得のため、何度も採用試験に落ちながらも日々勉強に奮起していた。87歳になる祖父は介護が必要。「もう死んだほうがよか」が口ぐせで、自殺を試みたこともある。健斗はこれまで以上に祖父を介護するが、本当の目的は別のところにあった。祖父を弱らせて自然な尊厳死へと導こうとしたのだ。しかし…。第153回芥川賞作品。

### かぐや姫の物語 (DVD)

ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン:発売元



竹の中から生まれ、すぐに成長して美しい娘に育ち、求婚者たちを次々と振ってしまうかぐや姫。挙げ句満月の夜、迎えに来た使者とともに月へと去ってしまう。姫は数ある星の中からなぜ地球を選んだのか。この地で何を思い、なぜ月へ去らねばならなかったのか。姫は罪を負っていたのか。では姫が犯した罪とは…。『竹取物語』に隠された人間・かぐや姫の物語を描く高畑勲監督のジブリスタジオ作品。(137分)

### 貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館  
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★  
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



### ほんとうにあった食べものと命のお話 (児童書)

笠原良郎 浅川陽子:監修 講談社:刊



「食べ物と命」をテーマに、10編のお話を収録しています。食材への感謝、食事にかかわる人々への感謝が自然と芽生えるお話、食卓の向こうにある環境問題を考えさせられるお話など「食」を多角的に取り上げています。毎日の食事ができるのは当たり前ではないと知ることができる食育の読みものです。